

南砺中央介護医療院の移設に係るコスト

1 医療需要の推計から見る急性期病床の必要数

南砺市における医療需要の推計を元に今後の必要病床数を算定した場合、2040年頃までは、高齢者を中心とした急性期病床が150床程度必要と見込まれています（将来ビジョン「患者需要の推計と必要病床数の算出」より）。なお、令和8年4月現在での市立2病院急性期病床における入院患者数は、平均で日当たり125人となっています。

手術機能を南砺中央病院に集約する場合、急性期病床150床が収容できるだけの病棟が現在ありません。そのため、これらの医療機能を南砺中央病院に集約する場合には、建物の増築又は病棟以外フロアを病棟化する必要があります。

○現在の両病院における病床数

南砺市民病院		南砺中央病院	
急性期病床①	48床	急性期病床	52床
急性期病床②	48床	回復期病床	52床
回復期病床（地ケア）	43床		
回復期病床（回リハ）	36床		
合計	175床	計	104床

南砺中央病院では、平成30年度末に3階病棟41床を廃止し、その後、市の一般会計において改修工事（約2.9億円）を行い、令和2年1月に同フロアに保健センター等が移転しました。同フロアを再び病棟化することになれば、当時の改修工事費が無駄になるだけでなく、再び大規模な改修工事が必要となります。また、現在、同フロアを使用している保健センターや訪問看護ステーションサテライトの移設先の確保や移設経費が再び生じることになるため、この選択肢は現実的ではありません。

一方、療養病棟を介護医療院に転換した6階フロアであれば、病棟構成をそのまま介護医療院に転用していることから、病棟に戻すための改修工事は不要となります。ただし、この場合であっても、介護医療院の移転に伴う各種コストが発生します。

2 南砺中央介護医療院の移転に係るコスト（概算）

病院併設型の南砺中央介護医療院を南砺市民病院に移設する場合、以下のコストが考えられます。また、以下（１）及び（２）は、いずれも南砺中央介護医療院を設立・運営するために投入してきた資金であり、移設するにはこれらの投資が無駄になってしまうと共に、南砺市民病院側で同程度のコストが再び生じることになります。

（１）設立準備に要するコスト（南砺中央介護医療院立上げ時）

- ・ コンサル委託料 3,053 千円
- ・ 介護医療院システム 9,313 千円
- ・ パーテーション 4,114 千円

（２）立上げ時の財政的支援

- ・ 繰出金及び負担金 111,861 千円
(R6:69,095 千円、R7:42,766 千円)

（３）市民病院側での改修工事

介護医療院 45 床を移設するためには、介護医療院の施設基準を満たすための改修工事が新たに必要となります。

① 東棟（43 床）に集約する場合

→介護医療院の施設基準は満たすが居室が足りない（10 床分 80m²が不足）

→改修経費（概算）

令和元年度南砺中央病院 3 階改修工事での委託単価／m²・工事単価／m²をベースに建築価格デフレーター等による近年の伸び率を加味して試算

- ・ 委託費 概算 880 千円
- ・ 工事費 概算 18,480 千円

② 西棟（36 床）に集約する場合

→介護医療院の施設基準を満たさない箇所あり

- ・ 居室要件（1 人 8m² 以上）を満たせない病室 7 部屋（28 床分）
- ・ 機能訓練室（40m² 以上）の確保が必要
- ・ 2 床分（16m²）の追加確保

→4 人床室の部分改修、2 床分の増床、機能訓練室の増設が必要

- ・ 7 部屋の部分改修（50m²）
- ・ 機能訓練室の増設が必要（40m²）
- ・ 2 床分の追加（16m²）

→改修経費（概算）

・委託費 概算 1,166 千円

・工事費 概算 24,486 千円

（４）移転期間における減収

現患者の移送、改修工事、南砺中央介護医療院患者の受入れまでの期間を１年と仮定した場合の減収額は以下のとおりとなります。（R7 決算値）

① 東棟（43 床）に集約する場合

▲408,702 千円／年

② 西棟（36 床）に集約する場合

▲450,528 千円／年

【 試算結果 】

●南砺中央介護医療院の移設により無駄になる投資

上記（１）＋（２）＝ 128,341 千円※ …ア

※立ち上げに要した職員人件費を含まない

●移転先で新たに生じる経費

上記（１）＋（２）＋（３）＝ 147,701 千円～153,993 千円 …イ

●移転先で生じる１年間当たりの減収額

上記（４）＝▲408,702 千円～▲450,528 千円 …ウ

実質的に生じる経費（ア＋イ＋ウ）は、684,744 千円～732,862 千円

※同試算には、南砺中央介護医療院の移設に伴って生じる一連の調整業務に係る職員人件費は含めていません

別添資料 3

大規模改修工事費の比較

○南砺市民病院

南砺市民病院		2030年		2040年		2050年	
建物区分	面積	大規模改修（築40年で実施）					
		5年以内	10年以内	15年以内	20年以内	25年以内	30年以内
南棟（築35年）	5,190m2	○					
東棟（築23年）	4,908m2				○		
西棟（築13年）	2,905m2						○※
中央棟（築13年）	3,672m2						○※
大規模改修に係る概算委託費		57,090千円			53,988千円		72,347千円
大規模改修に係る概算工事費		1,198,890千円			1,133,748千円		1,519,287千円
事業費合計		1,255,980千円	0千円	0千円	1,187,736千円	0千円	1,591,634千円

※この段階になると医療需要は大きく減少し、東棟の大規模改修を行わなくとも、医療需要を受けきれる可能性あり

○南砺中央病院

南砺中央病院		2030年		2040年		2050年	
建物区分	面積	大規模改修（築40年で実施）					
		5年以内	10年以内	15年以内	20年以内	25年以内	30年以内
全棟（築25年）	13,671m2			○			
大規模改修に係る概算委託費				150,381千円			
大規模改修に係る概算工事費				3,158,001千円			
事業費合計		0千円	0千円	3,308,382千円	0千円	0千円	0千円

★概算工事費に係る重要な留意事項

- （１）基本構想の策定は議会承認後であり、現時点で既存病院建物の使用用途や使用範囲を決定することができないことから、詳細な工事費の算出・比較は不可能です。
- ② 現在行うことができるコスト比較方法として、直近に実施した病院改修工事における工事単価と近年の工事価格の上昇率を用いる手法によりコスト比較を行っています。よって、両病院同条件かつ現在の建物を使い続けるという前提での試算となっていることを申し添えます。
- 【具体的な算出方法】
- ・令和元年度に実施した南砺中央病院３階改修工事（建築＋機械＋電気）から1m²当たり工事単価を算出
 - ・当該工事単価に国土交通省の建築工事費デフレーターによる補正（工事実施年度である2019年から2024年までの工事価格の伸び率）を乗じて得た補正後工事単価（231千円／m²）算出
 - ・当該補正後工事単価を大規模改修の対象となる病院建物面積に乘じて概算工事費を算出
- ③ 市民病院南棟の建替に関しては、令和５年度に実施した南棟に係る劣化調査により、建物躯体に係る物理的劣化はほぼ見られず、トイレスペースの不足や収納スペースの不足といった機能的劣化が主であったことから、現段階では、建替ではなく大規模改修工事にて対応可能と判断している。